
狂狂と回る針

あまの。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

狂狂と回る針

【Nコード】

N2004W

【作者名】

あまの。

【あらすじ】

初投稿。幸せなお一人様の話です。

すこしえぐいかも？（笑）

朝、私はまどろみの中で目を開ける。

ふと顔を向ければ、いつもと同じ、美しく愛しい人が眠る風景。

「……ふふ」

私の顔は満たされた幸せに嘘は吐けなかったらしく、知らないうちに緩んでいる。

>目に焼き付いたくやすらかなあの人の寝顔に、思わず頬がほころんでしまう。

「……」

「……」

「……朝ごはんの準備、しなくちゃ」

静かに起き上がり、洗面所に向かって、まだ覚めない眠気を刺さるような水と一緒に流す。

そして向かうのはキッチンという名の私のお城。

私はあなたの笑顔を思い浮かべながら、テンポ良く料理を作る。

口から知らずと溢れる、私たちが好きな歌を歌いながら。

貴方は少食だから、細くて>骨のようにく白い腕をしている。

だから私は、少しでも食べて貰える様に、手を変え品を変え、貴方の為に一生懸命作る。

貴方の微笑が見れるなら。私は何だってするだろう。

鮮やかな朝食を二人だけのテーブルにならべていく。

二人だけの朝。

<二人だけの世界>

『今日の朝食は何を作ったんだい？』

「ベーグルとポーランド風ソーセージ、それとコンソメベースの野菜スープよ」

『毎朝ありがとう、こんなにすばらしい妻をもて僕は幸せだよ』

屈託のない笑顔につられて、思わず私もほえんでしまう。

照れる気持ちもあるけれど、純粹に嬉しかった。<その言葉は全て私のものだから>

：：：：：

「昨日ね、・・・の・・・さんが・・・って事があつたらしいよ。私、あ、近所の・・・さんって知ってる？その人から―」

私の話を聞いてくれる。私だけを見つめてくれる。<もうどこにもいけないでくれる>

『ふうん…、それは大変だったね』
<その声も——>

取り留めもない会話、あなたの笑顔<だけ>をみつめながら、時間
はいつのまにか過ぎていく。
<その表情も——>

『そういえば今度の週末、久しぶりに——』
<その髪の毛も、首も>

「あ、それいいかもね！」

『だろう？』
<腕も鎖骨も>

ああ、これが幸せなんだ。
<その鼻も唇も耳も眼も浮き出た血管も頬も瞼も顎も歯も舌も鼓膜
も指も二の腕も喉も——>

その時、不意に何かを知らせる音が鳴る。

<私はそれを——に——せない>

「……あ、電話か」

広いダイニングから小走りで取りに行く私。

馴染み深い我が家の電話の受話器をとる、

誰だろうく邪魔するのは。ご近所さんかしら？

「はい……あ！お義母様！！」

：．

：．．．．

：．．．．．

< 離してよ！ねえ離しなさいよ！離せつてば！>

『次のニュースです。あの有名企業の御曹子…さんが死亡し、白骨化していた事が判りました』

> 彼はここにいないじゃない！お母様には分からないんですか！？<

『発見したのは音信不通を心配した実母で、電話での…婦人の挙動が不信だった為に家に向かい』

> なんで？なんで彼をいない人扱いするんですか？<

『その際に発見したそうです』

> 嘘よ！あの人は死んでなんかいません！今朝だってちゃんと！<

『…なお、その嫁は死んだ事がショックで精神が錯乱しており…』

（後書き）

まあ、テストのついでと小説を書き始めた最初期の物を。

とはいっても、居ても立つてもいられずとか言う前に、

発見して読み返した瞬間に改訂してましたけど。

しかしその挙句煮詰まって途中で投げました。そんな残念な何かです。

ネタバラシすると、最初の三点リーダー部分が3つあるのはひとつ一時間ってことで、

まどろみは日の出を隠喻してみたりします。ほかにもちみいギミックを仕込んでいたりするかも知れないです。

どーしたらもつと独善的で狂った感じが表現できるかアドバイスをくだされば！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2004w/>

狂狂と回る針

2011年11月13日00時08分発行